

平成20年度多可町創造大学「生活環境科」提言

私たち生活環境科は、「学びや楽しさから生まれる健康づくり」をテーマに講座を展開してきました。

自給食料利用による節約と安全性、先進地区の食文化と伝統の温存、多可町における自然環境とエコ発電の現状等について研修しました。

この一年を通じて学び得たことを通して、多可町民が幸せに暮らせることを願い、私たちの提言をまとめました。

- ☆ 体も心もリフレッシュ「楽しくメタボを予防しよう」と題したメタボについての講演と実技の講座には、大勢の参加者がありました。多くの方が健康について関心を持っており、予防医療や老後をいかに元気に過ごせるかについては、特に気になっているようです。

しかし、自分の事でありながら、継続して体操などを行っていくことはなかなか難しく、直ぐやめてしまう人が多いです。

そこで元気な町づくりの一環として、体操教室やリハビリ教室を各区・集落単位など小グループに区分けし開催することにより、継続して行えないものかと考えました。昨年度の提言にも手軽に体操できるようにとありますが、体を動かすことで、健康について学びながら、交流も図れるのではないかと思います。

- ☆ 食の安全安心には地産地消が大切であると学びました。

多可町は東西13km、南北に27km、面積185km²と広く、恵まれた自然環境の中で、季節毎にいろんな農作物が生産されています。

学校給食はもとより各家庭で、地元食材を上手に無駄なく使用する運動を進めては如何でしょうか。

食の産地偽装が問題になっている今、町内で生産されたおいしい減農薬（無農薬までは無理としても）の米・野菜・果物などの農産物を消費する地産地消運動を進め、町民すべてが健康で生涯現役で過ごせるような町づくり活動を提案します。

- ☆ ハーモニーパークの風力、太陽光発電設備を見学し、無風状態に近い山間地での設置は不向きの様だと感じました。また太陽光発電設備も日照時間に左右されると思います。多可町は、都市部と比較すると、日の出、日の入りが二時間は違い、晴天の日が少なく「弁当忘れても傘忘れるな」と言われています。

そのような悪条件の中で、多可町における年間発電量、イニシャルコスト、ランニングコスト、耐用年数等をデータとして公表してほしいと思います。その上で、役場から家庭へのソーラー発電導入の有効性を示していただけたらと思います。CO2削減、国の補助金などの言葉に、惑わされずに、設置業者の利益につながらないように、住民一人ひとりが的確な判断で取り組めるエコを考えていけたらと思います。